

第3回矢沢地区義務教育学校設立委員会の質疑・意見一覧 (R6.3.18)

○各専門部会の会議報告について

No.	質疑・意見	回答
1	中学生を対象としたスクールバスの運行について、義務教育学校の開校を待たず、冬期間だけでも利用できるようにしていただけないか？	状況を確認させていただきたい。
2	PTA役員の任期終了と一緒に、設立委員会の委員の任期も終了するものとして、小中学校PTAで話し合った。	
3	耐力度調査の結果4500点以上ということだが、5000点なのか6000点なのか、実際に何点だったのか？	<p>耐力度調査は棟別の判定となるが、矢沢小学校について、管理教室棟（小学校南側）が4,876点、北側の普通教室棟が4,770点、特別教室棟が4,600点、中央にある管理教室棟が5,428点。体育館南側の普通教室等が4,876点となっており、体育館以外はすべて4,500点を超える結果となった。</p> <p>中学校については、校舎の中央の棟が5,060点、増設した東側の棟が5,520点、校舎西側の棟が5,520点、体育館が5,060点。柔剣道場が5,596点ということで、すべてが5,000点を超える結果となった。</p>
4	<p>10,000点が満点とあるが、5000点というのはどの程度の話なのか。その基準がよくわからない。</p> <p>例えば比較的新しい湯口中学校だと8000点や9000点になっているのか。長寿命化工事をしている桜台小学校は何点だったのか。4500点という基準がどのように安全なのか。</p>	<p>湯口中学校について、現在の校舎では耐力度調査は実施していないが、旧校舎では耐震補強工事をしていなかったため4,500点以下であった。鉄筋コンクリート造で耐震補強工事を行った場合4,500点以下になることは、今回の調査結果をみてもあまりないと思われる。</p> <p>桜台小学校についても、耐力度調査を実施していないが、基本的に4,500点を超えていると想定されたことから、長寿命化工事を行ったもの。</p> <p>文部科学省では、4,500点を超えた場合は基本的に改築とせず、長寿命化となる。適切なタイミングで長寿命化工事を行うことで、改修後30年以上、物理的な耐用年数を延ばすことができるとされている。</p>

○保護者・地域説明用「矢沢地区義務教育学校 基本構想（案）」について

No.	質疑・意見	回答
1	<p>どこにどんな立派な学校ができるかということが、地域住民の関心が高いところ。中学校の土地を使うという方向だが、もう少し丁寧な説明が必要と思う。</p> <p>例えば、廊下や教室が狭いと感じているが、新校舎になったら拡張されるのか、また、小学校校舎や体育館はどのようなものが作られるのか、もう少し具体的なイメージができるような住民説明が必要と思う。</p>	<p>仮に第1候補地の矢沢中学校となり、中学校校舎を長寿命化となった場合であるが、現中学校校舎を小学生低学年が使うということも可能である。新しい増築棟をどのように使うかについては、これからの基本設計の中で皆様と話し合いながら、レイアウト等について具体的にしていく。</p> <p>また、配置上、体育館が狭い、動線が厳しい、駐車場が狭いなどご意見があると思う。既存の建物があることによって、教育環境に影響があるという場合については、例えば改築するなど、併せて検討する。</p> <p>これからのスケジュールとしては、本年6月以降に基本設計を行うものと考えている。引き続き皆様のご意見を伺いながら進めていく。</p>
2	<p>（候補地について）</p> <p>地域に説明する際に、第3案として現小中学校以外の場所に新設する案を追加した方がよいのではないか？</p> <p>（現小中学校以外の場所への新設は難しいと検討した状況を示した方がよいのでは？）</p>	<p>案の追加については事務局内で検討する。</p>